

気候危機を鑑み、相生山緑地を横切る弥富相生山線の代替案を 市民と共に作ることを求める請願

[請願事項]

気候危機を鑑み、相生山緑地を横切る弥富相生山線の代替案を市民と共に作ることを求める

[請願理由]

異常気象が続く今日、気候変動がもたらす地球への影響について、私たち一人ひとりが自分事として考えざるを得ない状況になっている。ここ名古屋市においても、総合計画 2023 にもあるように緑の保全の観点からも、相生山緑地を横切る弥富相生山線の是非が問われている。

この件で 14 年前に諮問された「学術検証委員会」が 2010 年に提出した報告書のおわりに「政治、行政、地域住民などの当事者が高度で責任ある判断をされることになろう」と記されている。

11 年後になって同じ専門家のメンバーによる「学術検証懇談会」が開かれた。

道路廃止に向けた様々な検証や代替案について、市民との信頼の下に進められるべき「学術検証懇談会」は、当初の「学術検証委員会」とは異なり市民に公開されず、その懇談会の記録には発言者の記載もない、不透明なものであった。この懇談会での専門家の数少ない発言を捉え、名古屋市は「折衷案作成」に進みだした。

しかし、「学術検証懇談会」が開かれた 2021 年は、生物多様性の重要性をはじめとする「SDGs」に名古屋市も取り組み、グリーンインフラの重要性が益々認識される時期であった。更に、河村市長の道路事業廃止表明から 7 年が経ち、名古屋市は道路建設の目的であった渋滞解消に向けた対策として「島田・野並交差点」での車線の増設などによる計画を進めていた時でもあった。

現在、名古屋市は「折衷案」の作成を終え、「弥富相生山線に係る折衷案」についての意見聴取会を行っている。何と何の折衷なのかの説明もできずに示された「折衷案」は、まさしく「行政がブレイヤー」となった動画 3 案であり、折衷案として成り立っていない。しかもこの作成委託に 3 年も要し 5000 万円以上も費やしている。また、説明資料には「弥富相生山線に係る折衷案及び相生山緑地の基本計画に関する市民意識調査」として WEB アンケートの結果を示していたが、回答者には「市長の廃止表明」や「折衷案」に言及しないまま WEB アンケートは行われていた。相生山緑地が抱える基本的な問題が設問に反映されていない「市民意識調査」である。民意は無視されているのではないのか？

未着手部だけで概算 15 億円を要するとする「折衷案一動画 3 案目」は果たして必要なのか？

今こそ、「既存の散策路や既存の生活道路を生かした代替案」を真剣に検討することではないか。

「学術検証懇談会」の記録を踏まえ、以下の点に注視しながら市民が主体的に検証や代替案に関わることが必要とされる。

- ① 懇談会である委員から道路建設は「必要な短縮なのか？」・「必要な効果なのか？」との発言が基本的な問題として検証され、活かされること。
- ② 相生山緑地全体は「避難拠点」とされ、これに繋がる道路は既に出来ており、渋滞解消を目的としていた「久方」までを終点とする弥富相生山線は、今は島田・野並交差点での車線増設により改善されているとのこと。
- ③ 「グリーンインフラ」・「緑のネットワーク」から相生山緑地の役割を検証すること。
- ④ 今回の道路問題は、「街づくり」に関わり、市民と行政との協働が求められる。

以上

相生山緑地を考える市民の会